

幼児におけるメディアによる死の問題の理解

—「鬼滅の刃」の分析を通して—

Understanding of death by the media in young children

-Through the analysis of "Demon Slayer"-

森定 美也子

Miyako Morisada

要 約

「鬼滅の刃」は、これまで幼児に流行したメディアの中では、最も惨酷なシーンや死の問題を含む作品であるものの、絵柄の可愛さや、コラボ商品の多さから幼児の遊びの中に広く浸透している。残酷なシーンやキャラクターの死の問題について、幼児がどのようにとらえているのか明らかにする目的で、実習生に調査を行った。その結果を踏まえて、子ども達の「鬼滅の刃」の遊びや話に対してどのように理解し、対応するのがよいのかについて考察した。そして、この物語を「死ぬこと、生きることの問題について向き合う」よい題材にできるかは、大人の解説が重要である点について論じた。

(1) はじめに

「鬼滅の刃」は、吾峠呼世晴氏による作品で、少年ジャンプに連載され、2020年12月の時点で単行本1億2000万冊を売り上げる非常に人気のある和風ダークファンタジー漫画である。2019年4～9月に深夜アニメとして1～7巻分がアニメ化され、2020年10月から7、8巻分にあたる部分が映画化され、興行収入が国内で上映された映画第一位となる大ヒットとなった。アニメは2020年10月に19時台に再放送されたこともあり、幼児が見る機会が増えた。

現在「鬼滅の刃」の物語は、主人公の家族が鬼に惨殺されるエピソードから始まり、鬼の首を切らないと鬼が消滅しないなど、惨酷な表現が含まれるのにもかかわらず、広く幼児期の子どもたちに知られ、遊びに取り入れられている。

映画は単行本の7、8巻に相当する。無限列車における鬼との闘いにおいて、主人公の炭治郎の家族が鬼に惨殺されたシーンや、炭治郎自らが自分の首を切って鬼の悪夢から覚めるシーン、鬼の首を切るシーン、主人公の先輩の煉獄杏寿郎(以下煉獄さん)が鬼と戦い、一般人を守りつつも瀕死の重傷を負い、後輩たちに遺志を託しつつ亡くなるシーンなどが

描かれている。

「鬼滅の刃」の映画は、映画倫理委員会(映倫)のレイティングシステムでPG-12指定を受けている。PG-12の「PG」は“Parental Guidance”の略称であり、映倫は「小学生は保護者の助言や指導が必要である」と定義している。保護者が子どもに見せてよいか判断して見せることが必要であり、見せた後も、解説するなどフォローすることが必要というものである

「鬼滅の刃」は、これまで幼児に流行したメディアの中では、最も惨酷なシーンを含む作品であるものの、絵柄の可愛さや、コラボ商品の多さから幼児の遊びの中に広く浸透し、特に20年10月の映画公開後、幼児の遊びの中に取り上げられることが大変多くなった。「鬼滅の刃」の話の内容は、後述するように、心理学的にも興味深い点が多々あるが、反面、残酷なシーンやキャラクターの死の問題については、幼児がどのようにとらえているのか取り上げた研究はまだない。本論では、この点を明らかにする目的で、子ども園の実習生に調査を行った。それを踏まえて、子ども達の「鬼滅の刃」の遊びや話に対してどのように理解し、対応するのがよいのか考察していきたい。

(2) 方法

2020年11月に子ども園に実習に行った1年生73人と12月に実習に行った2年生82人、計155人に「鬼滅の刃」(以下鬼滅)の遊びの様子や話題、映画の話の有無や内容について調査を行った。

(3) 結果と考察

① 鬼滅の刃の遊びについて

実習生に鬼滅について何歳のクラスでどのような鬼滅の遊びや話が見られたか、複数回答可の自由記述で質問し、分類したものが表1である。

表1 実習生の自由記述による遊びの分類

| | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 |
|-------------|--------------|---------------|---------------|---------------|
| 鬼滅ごっこ | 17.2% (5) | 31% (33) | 45.7% (64) | 71.1% (81) |
| 鬼滅の話をする | 6.9% (2) | 14% (15) | 12.9% (18) | 21.1% (24) |
| 鬼滅の絵を描く | 0 | 3.7% (4) | 10% (14) | 14.9% (17) |
| 鬼滅の歌を歌う | 0 | 7.5% (8) | 5% (7) | 5.3% (6) |
| 鬼滅のグッズを持つ | 6.9% (2) | 15.9% (17) | 13.6% (19) | 20.2% (13) |
| そのクラスにいた実習生 | 29 | 107 | 140 | 114 |

鬼滅の刃ごっこは、表1によれば、2歳17.2%と、2歳から見られ、3歳31%、4歳45.7%、5歳71.1%と、年齢が上がるごとに多く見られるようになっていく。

また、男児、女児に一番人気のあったキャラクターを実習生に聞いてみたところ、男児は主人公の竈門炭治郎(65%)の人气が高く、次いで映画で活躍する煉獄杏寿郎(13.1%)、アニメで活躍し炭治郎を鬼殺隊へと導く富岡義勇(8.8%)、主人公の友人で臆病だがいざというときは頼りになる我妻善逸(7.3%)等が続く。女児は、炭治郎の妹で鬼になっても兄を助ける竈門禰豆子(71.7%)の人气が高く、次いで、けがをした主人公

たちを治療する胡蝶しのぶ(24.1%)が挙げられた。

自由記述から年齢ごとの遊びを具体的に比してみる。2歳の鬼滅ごっこ遊びでは「トイレットペーパーの芯に緑の折り紙を巻きつけ、くわえて禰豆子ごっこをしていた」という遊びが見られている。禰豆子は、鬼になってしまったため、人をかまないように竹製の猿ぐつわをしている。「むーむー」としか言えない様子がかわいらしいキャラクターである。この「禰豆子ごっこ」は年齢を問わずよく見られる。

3歳では「ブロックでキャラクターの刀をつくり、大型積み木を並べて列車にして上に座り、無限列車に乗っていると友達と喜んで遊んでいた。また、トイレットペーパーの芯を竹に見立てて、マスクの上からくわえていたり、一人一人役割を決めて鬼滅ごっこをしていた」、「炭治郎の『水の呼吸式ノ型水車』と言い飛びながら左回りに回っていた」、「炭治郎の型が全て言える子どもがいた」など、チャンバラごっこが入ってくる。炭治郎の技名を覚えている子どもも見られる。

4歳では、「ブロックで剣を作って、『水の呼吸壱の型水面斬り』と技名を言って友達と遊んでいた。一人一人キャラクターが決まっていた」、「炭治郎役をして背中に大型ブロックを背負い『これ禰豆子』など、鬼滅ごっこをして遊んでいた。『〇〇の呼吸〇〇』と目の前にあるものや自分で考えたものを技として使って遊んでいた。また、禰豆子の真似をして自作の竹をくわえて遊んだり、胡蝶しのぶの真似で蝶の髪飾りを作って遊んでいた」。4歳は3歳よりもそれぞれのキャラクターを理解したり、設定をもとに自分達で創作して遊ぶ様子が見られる。

5歳では、「鬼滅鬼ごっこという子どもがつくった鬼ごっこがあった。なりたい鬼やキャラに分かれて遊んでいた」。「子どもたちは、鬼滅の刃のキャラクターの名前や呼吸、型の名前を暗記していてすごいと思った。女の子は、鬼滅ごっことして、戦いはせず、鬼滅のキャラクターの日常生活を演じて遊んでいた」。敵の鬼のキャラクターも理解して遊んでいることが分かる。

「鬼滅ごっこ」から、危険な遊びにつながっていく様子があったかどうか実習生に聞いたところ、9.7%に、危険だと思われる鬼滅ごっこが見られた。具体的には、「5歳児で、紙粘土でつくった剣を持って、男児たちが日輪刃ごっこをしている様子が見られた。その場で一緒に遊んでいなかった子どもに当たったりして、『先生、〇〇くんは何もしてないのにぶつけられた』と言いに来る子どもが何人か居た」、「4歳で紙を丸めて

つくった刀で、友達同士で戦いごっこをしていて危なかった。先生が止めていなかったら確実に怪我をする子がいたと思う」、「4歳で、作った刀で優しく首を切るという遊びが見られた」、「ひっかくなどはなかったが戦いごっこで少し騒がしく走り回っていた。度を超えた時には保育者の方が声をかけていた」、「日輪刀ごっこが好きな子が多く、玩具で作った刀を室内で振り回す様子がよく見られた。ほかのクラスでは怪我をした子もいたと聞いた」などである。戦隊ものの戦いごっこでも見られることであるが、興奮しすぎないような指導が必要になる。鬼滅では「鬼の首を切って」鬼を倒すが、優しくでも「首を切る」などの遊びは、当然行わない方がよい。また、園によっては「日輪刀を作っても、戦いごっこしない」という約束を子どもたちとしているところもあった。

また、女兒においては「鬼化した禰豆子のように、相手をひっかいてしまった」という例も見られた。禰豆子は普段は、竹をくわえたかわいらしいキャラクターであるが、炭治郎を助けて鬼と戦う時は、鬼の力、血鬼術を使い、爪で引っかいたり、素足で鋭い蹴りをくらわせたりする。プリキュアなどの魔法少女ものとは異なる、野性的な魅力を持つ。この禰豆子の攻撃的な部分を真似してしまう点については警戒が必要だが、実際にひっかいてしまったのは1例のみで、ほとんどが竹をくわえた大人しい禰豆子ごっこであった。

刀を使った遊びにおいても、子ども達がうまくコントロールができて遊んでいる園も多く、鬼滅に限らず「相手に当てないように遊ぶ」指導が問われるところである。

② 鬼滅の刃の映画について

実習生が「鬼滅の刃」の映画の話題を子どもから聞いたケースを年齢別にまとめたところ、2歳のクラスで子どもから「映画に行った」と聞いたケースは6.9%、3歳のクラスは40.2%、4歳のクラスは67.9%、5歳のクラスは97.4%となった。年齢が上がるにつれて、映画に行ったということを聞いたケースが増えている。

映画の内容についてであるが、前述のように、炭治郎の一家惨殺シーンなど残酷なシーンもあり、最後は先輩の煉獄さんの死を悼んで終わる。戦隊ものなど、幼児向けの映画によく見られる、「敵を倒してハッピーエンド」ではない。

この煉獄さんの最期は、エリクソンの心理社会的発達理論（エリクソン 1959）によく合致する。エリクソンは人間の人生を8つに分類し、それぞれの段階で獲得すべき心の課題と、

それが失敗したときに陥る心の危機について述べた。煉獄さんは20歳であるが、常に死と隣り合わせに生き、後輩の指導などにもあたっているため、「自らの経験を次の世代に継承させ、次世代を育てる」第7段階の「世代性」、「自分の人生がこれで良かったと人生をまとめる」第8段階の「統合」の心の課題をすでに獲得している。煉獄さんの最期にはこの点が明確に表現されているので詳しく紹介する。

腹部を敵の鬼の^{あかざ}猗窩座の拳で貫かれた煉獄さんは、夜明けが近いことを知り、死を覚悟の上で、猗窩座を太陽の下に引き留め消滅させようと戦う。今すぐ逃げ出したい猗窩座との力比べ勝負となり、猗窩座はやむなく自分の腕を切り離し、その場から立ち去る。猗窩座を撃退したものの、瀕死の煉獄さんは炭治郎たちを側に招き、最期の言葉を伝える。「己の弱さや不甲斐なさにどれだけ打ちのめされようと 心を燃やせ 歯を喰いしばって前を向け 君が足を止めて蹲っても時間の流れは止まってくれない 共に寄り添って悲しんではくれない。もっともっと成長しろ。そして今度は君たちが鬼殺隊を支える柱となるのだ。俺は信じる 君たちを信じる」（吾峠 2017）。この煉獄さんの言葉には、「自らの経験を次の世代に引き継ぎ、育てる」第7段階のテーマが見事に表現されている。

煉獄さんは炭治郎たちに自分の伝えるべきことを全て言い切ると、第8段階の「統合」の段階に移行する。ここで煉獄さんの亡くなった母が迎えにやってくる。煉獄さんは自分の人生を振り返り、「母上、俺はちゃんとやれたでしょうか。やるべきこと果たすべきことを全うできましたか？」と問う。それを聞いた母は、「立派にできましたよ」と答える。それを聞いて、煉獄さんは、最期に笑顔を見せてこの世を去っていく。

煉獄さんが亡くなった後、炭治郎たちが号泣するのも理にかなっている。喪失体験を受け止めるためには、涙を流し、皆で悲しみを共有し、しっかりと悲しむことが大切だからである。ここで伊之助が「信じるといわれたならそれにこたえること以外考えんじゃねえ！」と泣きながら叫ぶが、このことから、煉獄さんの遺志がしっかりと受け止められていることが分かる。事実、この煉獄さんの言葉が、この後の炭治郎たちの心の中で生き続け「継承」されていくのである。

また、亡くなった母が迎えに来る、というシチュエーションであるが、鬼滅の刃にはこのような、あの世とこの世の間の中間領域ともいえるエピソードがよくみられ、物語の良き補完となっている。例えば、最終決戦で我妻善逸が瀕死の時に、亡くなった師匠が三途の川の向こうから励ましてくれるやり取りや、

鬼の童磨とそれを倒した胡蝶しのぶの死んだ後のやり取りなど、あの世とこの世の間領域におけるシーンが多い。あの世の話が多くみられる古典芸能の世界に通じるものが感じられ、無宗教と言われる日本人の、古来からの死生観がよく示されているといえる。

「鬼滅の刃」では、鬼の始祖である鬼舞辻無惨を倒すため、炭治郎が属する鬼殺隊は400年もの間、鬼を倒す技と意志を継承してきている。「世代性・継承」は鬼滅の一つのテーマである。一方、これとは対照的に、鬼舞辻無惨は、世代性という心の課題が獲得できずに、自分のことしか考えない「停滞」の状態をよく体現している。無惨は不死の鬼であるため、変化を嫌い、他者を顧みない。最終23巻で「自分のことだけ考える！」と炭治郎を説得するが、思い通りにならず、第8段階の心の危機の「絶望」に陥り、絶望の中で消滅してしまう。煉獄さんが辿る「世代性」から「統合」への心の課題をしっかりと果たした正当な生き方の流れが、物語のラストの無惨の「停滞」から「絶望」という心の危機に陥った状態と好対照になるように作られている点が、エリクソンの心理社会的発達理論から見たこの物語の妙である。

死闘の末、煉獄さんが亡くなり、主人公たちがその死を悼んで号泣する中、映画の最後に煉獄さんの追悼歌である「炎」が流れる。「さよなら ありがとう 声の限り 悲しみよりもっと大事なこと 去りゆく背中に伝えたくて 君の言葉 君の願い 僕は守り抜くと誓ったんだ ～託された幸せと約束を超えていく 振り返らずに進むから 前だけ向いて叫ぶから 心に炎(ほむら)を灯して 遠い未来まで」という煉獄さんの死の間際の言葉を継承する内容になっている。

鬼滅の歌について、表1の結果を平均すると、鬼滅の刃の歌を歌っているのは6%ほどである。子ども達にはアニメの主題歌「紅蓮華」がよく歌われている。「紅蓮華」は、「誰かのために強くなれるなら ありがとう 悲しみよ 世界に打ちのめされて負ける意味を知った 紅蓮の華よ咲き誇れ！ 運命を照らして」というように、炭治郎の生きざまを描いた歌詞となっている。12月に実習に行った2年生の方が歌っている子どもを多く見かけており、映画の主題歌「炎」を歌っている子どももいた。映画の主題歌「炎」は、子どもに流行する歌では稀有である「追悼と継承の歌」となっている。これを子どもが歌うことで、映画や歌詞の内容から亡くなった人の遺志を継ぐことや、それが心の中に生き続けることなどの理解につながれば素晴らしいことであろう。

さて、映画を見た園児たちはこの煉獄さんの最期をどのようにとらえたであろうか？

実習生に「映画を見た」と答えた子どもたちのうち、「煉獄さんの死」について話題にしたケースは3歳で18.6%、4歳で25.3%、5歳で31.5%であり、年齢が上がるにつれて、話題に上がっていることが分かる。

子ども達がどのように語っていたか書いてもらった自由記述を見ると、3歳は「煉獄さん死んじゃった」と語るのみであるが、「4歳児、『煉獄さん死んでもた。好きやったのに』といていた」、「5歳で『煉獄さんがかっこよかった。死んで悲しかった』といていた」など、悲しみを表現している。

幼児期において、死について学ぶことができることは貴重である。「百万回生きた猫」などの絵本や、生き物の飼育などで死に触れることはあるが、普段はなかなかそのような機会はない。死について考えることは生きることについて考えることでもあり、幼児であっても、人生についての貴重な学びにつながる。子ども達のとらえる「煉獄さんのカッコよさ」は、「命を懸けて乗客を守り戦い抜いたことがかっこいい」という点であろう。大人はそのあと煉獄さんが「自分の遺志を後輩に伝えて勇気づけ、自分の死をしっかりと受け止めて亡くなっていったこと」に感動する。このような視点を、子ども達に言葉でしっかりと伝えることは意味がある。煉獄さんの死について問いかけてくる子どもに対しては、意志の継承と死の受容という視点から、この物語を子どもに解説することが、人生についての良い学びにつながるであろう。

一方でネットの映画の感想などを見てみると、保護者が内容をよく理解せずに映画につれて行っているケースが散見される。映画やアニメを見せる時は、保護者がその内容を把握して、子どもに視聴させるかどうか検討することが大切である。実習生の調査では「鬼滅のアニメや映画を見てはいけない」と親から禁止されていた園児のケースが8件あった。保護者が内容を検討された結果であろう。作者の吾峠氏はリアリストであるため、戦いにおいて味方が無傷であることをよしとしない。今回の煉獄さんの死のような味方の喪失、怪我による身体の欠損など物語上不可欠となる残酷なシーンは、映画の後の物語の展開からも多々見られる。「鬼滅の刃が怖い」と言っていた子どものケースも20件あった。見てしまって怖かった子にはどこが怖かったのか共感的に聞き、気持ちを言語化して、「これが物語で、現実ではない」点を理解できるよう、気持ちを整理することが大切である。怖いと思った子どもに対して

は、保護者は今後「見せない」決断をすることも必要である。もともと「鬼滅の刃」は深夜アニメであり、幼児に見せる想定でなかった作品である。保護者が内容を判断して「見せない」のも選択肢の一つである。キャラクターのかわいさに引きずられがちであるが、内容は幼児向きではない。今後の鬼滅の刃のアニメや映画についても、保護者は、見せるかどうかの検討、見せるならフォローや解説が必要となる。

鬼滅は全23巻のうちアニメで7巻途中まで、映画で7から8巻が取り上げられた。3分の1が終わったというところであり、今後アニメや映画で3～4年は鬼滅の話題が子どもたちから出てくると考えられる。最終の23巻まで多くのキャラクターが亡くなっていく。煉獄さんの死を含めて、死の問題を真正面から扱っていくこの物語が、死がぐっと身近になったコロナ禍の世相にマッチしたといえる。子ども達もまた、そのようなつながりをうすうす感じながら、「鬼滅の刃」の物語の死の描写から学んでいるのかもしれない。この点をしっかりと理解するためには、大人の解釈が必要であり、この物語を「死ぬこと、生きることの問題について向き合う」よい題材にできるかは、大人がいかにこの物語を子どもにわかりやすく言語化できるかにかかっているといえる。

参考文献

- Erik H. Erikson 1959 Identity and the Life Cycle
アイデンティティとライフサイクル 2011 訳 西平 直
誠信書房
- Erik H. Erikson , Joan M. Erikson E.H. 2001 ライフサイクル、その完結 訳 村瀬 孝雄, 近藤 邦夫 みすず書房
- 吾峠呼世晴 2017 鬼滅の刃 8巻66話 集英社